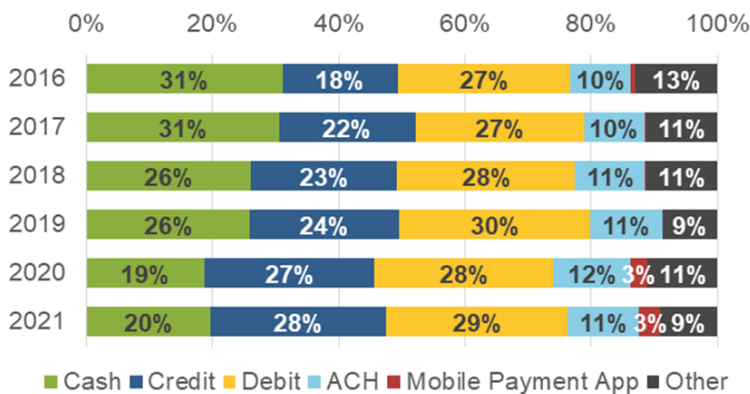


# アメリカと日本の キャッシュレス市場について

アメリカと日本には様々な違いがありますが、一つ代表的なものとして現金の取り扱いが挙げられるかと思えます。今回は、アメリカと日本のキャッシュレス市場についてご説明します。

## 1. アメリカにおけるキャッシュレスの市場規模

私自身もアメリカでの生活では現金を利用する月がないときもあるほどキャッシュレス化を実感している一人ですが、実際に一般の人が支払いに利用する手段の調査結果をみると、意外なことに現金取引は20%も残っていることが図表①から読み取れます。この背景には、消費項目によっては匿名性の高い現金の利用が好まれたり、若者などクレジットカードが簡単に発行されない消費者層も多いことで現金を好む傾向が残っていることがあります。また米国が抱える格差社会の問題も現金取引が根強く残る理由の一つと言われています。一方、デビットカードやクレジットカードの利用は年々増加しており、2021年にはその合算シェアは57%に到達しています。



【図表①】決済手段別の取引件数シェア  
(出所: Federal Reserve Bank of San Francisco)

このようにアメリカのキャッシュレスの中心はデビットカードとクレジットカードですが、その内訳で見るとやはり年々クレジットカードの利用率が増加しています。デビットカードについては2019年から2020年にかけて減少に転じましたが、2020年の新型コロナウイルスの影響により消費者の購買行動が堅実となり、2021年にはデビットカードの利用率が再び増加しています。

ここで少しデビットカード、クレジットカード以外のキャッシュレス決済にも触れてみます。アメリカでは近距離無線通信機能(NFC)を持ったカードの普及は遅れていましたが、Apple PayなどのスマートフォンによるNFCを利用したペイメントの拡大を受け、6割程度の小売店で利用できると言われています。このようなモバイルペイメントを持つ人は4割程度いると言われていますが、実際の利用は図表①の通り限定的で、今後利用は徐々に拡大することが見込まれます。

## 2. なぜアメリカではキャッシュレス化が進むのか

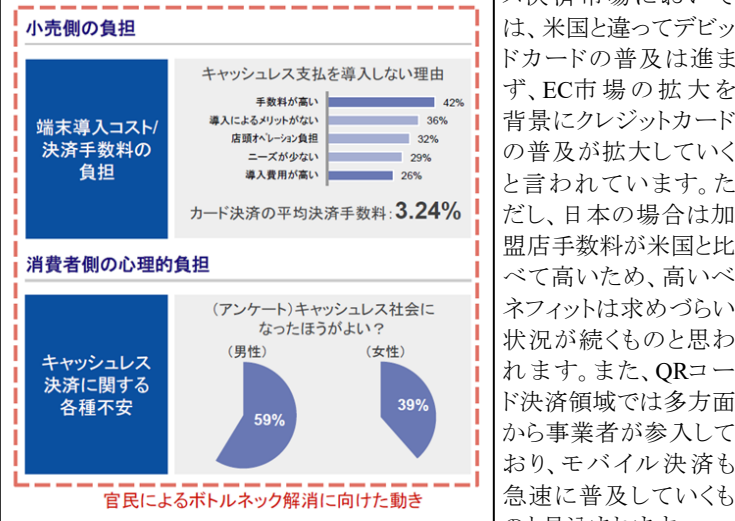
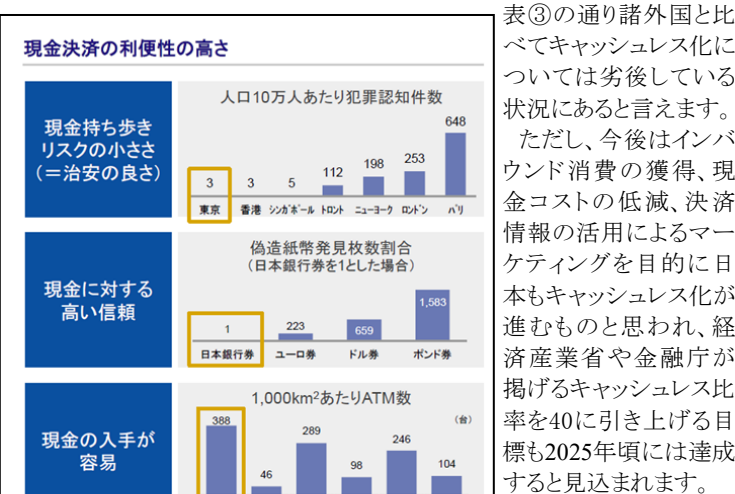
全体の動きとしては、二つの理由が挙げられます。一つ目が、キャッシュカードにVisaやMasterなど支払い機能がついたデビットカードが普及していることです。そして二つ目が、日本と違ってアメリカでは銀行本体がクレジットカードを発行していることで、これも普及が進んだ理由の一つと言われています。

次に小売店側、消費者側の立場に立って考えてみます。小売店側にとっては、①現金と比べて支払いがスムーズであること、②従業員の不正を防止できる、③強盗盗難被害のリスクが抑えられるといったメリットがあげられます。アメリカならではの事情が普及を進めた一因になっているようです。消費者側にとっては、①小売店同様に決済スピードが速いこと、②クレジットカード利用によるベネフィットが充実していることが挙げられます。

## 3. 日本ではキャッシュレス決済進むのか

続いて日本のキャッシュレス化について触れたいと思います。

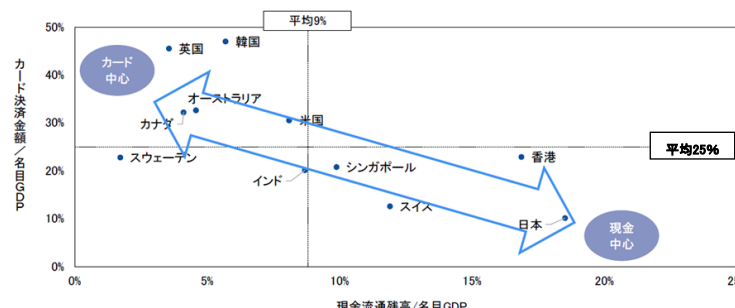
日本では、図表②の通り充実した現金決済インフラや、小売・消費者負担等がキャッシュレス化のハードルとなっています。その結果として、図表③の通り諸外国と比べてキャッシュレス化については劣後している状況にあると言えます。



【図表②】(出所: みずほ銀行産業調査部)

## 4. 最後に

今回はアメリカと日本のキャッシュレス化をテーマに記載しました。個人的には、長いアメリカでの生活でキャッシュレス化が身に付いてしまい日本に一時帰国した際も極力クレジット決済で済ませるようにしています。クレジットカード以外にも多くの決済手段が登場しています。皆様もご自身のライフスタイルにあった決済手段を考えてみてはいかがでしょうか。(Mizuho Bank, Ltd. 酒井 一宏)



【図表③】現金流通残高とカード決済金額の対名目GDP比率  
(出所: みずほ銀行産業調査部)